



【功績と推薦理由】

田中滋夫氏は早稲田大学建築学科吉阪研究室第 1 期生として早稲田大学における草創期の都市計画研究を展開し、並行して都市プランナーとしての実務を確立した。

1992 年早稲田大学における寄付講座を民間プランナー 4 5 社の協賛金により設立することを契機に「早稲田都市計画フォーラム」を結成、代表幹事を務める。早稲田都市計画フォーラムでは 1993 年から毎年「まちづくりシンポジウム」を早稲田大学国際会議場で開催、1995 年からは稲門市長会、稲門町村長会と連携して「早稲田メイヤーズ会議」を開催する他、年に数回の「連続セミナー」を実施、これらを 3 0 年以上続けて開催し続けており多くの首長等行政関係者、研究者、実務者、学生、一般市民が集い、新たなまちづくりをリードする場として定着している。

大学では寄付講座で全学共通の「現代都市・地域論」「現代都市・地域論演習」を開講し、早稲田大学専門学校「参加のまちづくりコース」「都市デザインコース」の開講や早稲田大学理工学総合研究センター学術支援領域「参加のまちづくり研究」開設に参画し、「早稲田大学都市・地域研究所」開設等のまちづくり研究・活動の流れを創った。また、建築学科では都市計画の演習 F の講師を長く勤め、これらの活動を通じて多くの実務者・研究者を育ててきた。

実務では時代の先端を切り開く地権者と地域性に立脚した永続性のある都市開発に関して新たな調査手法、組み立てを確立し、仙台市等で多くのプロジェクトを実現しデザインの力を実証してきた。

これらの業績について稲門建築会特別功労賞に相応しいものとして推薦いたします。

推薦者 早稲田大学名誉教授 佐藤 滋（苗 1973）

【学歴】

1966 年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1968 年 早稲田大学大学院建設工学修士卒業
1970 年 早稲田大学大学院建設工学科
都市計画専攻博士課程単位取得中退

【略歴】

1968 年 ダムダン創設、主宰
1979 年 株式会社都市デザイン設立、
代表取締役就任
1979-2014 年 早稲田大学講師
1992-2024 年 早稲田都市計画フォーラム代表幹事
2003- 現在 代表取締役退任、事業部門代表就任
2004-2014 年 東京理科大学講師
1992-2024 年 早稲田都市計画フォーラム代表幹事

【主なプロジェクト実績】

杜の都・仙台 –その将来像を提案する -（1973 年）
泉市中心市街地地区建設基本計画及び実施計画（1975 年～ 1985 年）
仙台 1 4 1 ビル基本設計及び総合プロデュース（1984 年～ 1987 年）
仙台市都市景観建築計画（1987 年～ 1991 年）
ぶらんどーむ一番町（一番街アーケード）基本－実施設計（1990 年～ 1993 年）
仙台駅北部第一南地区第二種市街地再開発事業・AER(1989 年～ 1998 年）
仙台市中心市街地活性化基本計画（1999 年）
早大本庄キャンパスリサーチパーク事業推進及び基本設計（1996 年～ 2003 年）
いわき駅前地区市街地再開発事業推進、運営管理計画等（2002 年～ 2007 年）
仙台市一番町 2 丁目 4 番地区市街地再開発事業推進等（2009 年～ 2014 年）
石巻市川沿いゾーン復興及び中央 2 丁目 14/15 番地区再開発（2011 年～ 2018 年）
徳山駅前地区市街地再開発事業（2015 年～）

【受賞】

都市計画学会賞（杜の都・仙台 –その将来像を提案する -）
仙台市都市景観賞（ビーブ日専連仙台会会館）
都市景観大賞（ぶらんどーむ一番町）

【主な著作】

造景の様相（「建築」連載）
仙台杜の都のまちづくり（「造景」掲載）
仙台都心地区のアーバンデザイン
（建築設計資料集成：日本建築学会編）
図説都市デザインの進め方（共著：丸善）
まちづくり市民事業（共著 学芸出版社）



都市計画大賞：ぶらんどーむ一番町（仙台市）



総合プロデュース：1 4 1（仙台市）



ランドスケープ計画：早大本庄（本庄市）



事業推進、運営管理計画他：駅前再開発（いわき市）



事業コーディネート：中心市街地再開発（仙台市）



まちなか復興再開発（石巻市）

主な社会貢献活動、教育活動など

◆早稲田まちづくりシンポジウム 30年の実績

年度	シンポジウムテーマ	メイヤーズ会議	登壇者数(人)				
			首長	学 識	行 政	民 間	外 国
1993	地域から望む、もうひとつの世界		2	17	4	13	－
1994	地域から望む世界像、地域が生み出す都市像		－	1	15	－	－
1995	まちづくりのコスモス	参加と分権のすがたと意義	14	15	1	19	－
1996	今、社会が求める新しい職能、まちづくり家とは？	分散と交流時代の地域経営	7	2	3	7	－
1997	明日の都市をつくる	地方分権時代の都市づくり	8	19	3	8	－
1998	中心街再建のビジョン 地方都市の中心街再生戦略	中心街再生の最先端	5	16	6	22	－
1999	都市計画と民主主義	歴史的転換点に立って都市を展望する	9	19	7	13	6
2000	21 世紀、脱自動車都市へのプロローグ	ポスト団塊の世代のメイヤーが描く分権と市民参加の都市像	6	13	2	18	5
2001	いま日本のまちづくりの根本を検証する	市民社会と地域経営	9	8	3	7	－
2002	人間列島、動き出す	東アジアにおける都市再生の戦略	2	9	8	22	3
2003	21 世紀の日本のかたち・網の目社会をデザインする	地域から国土のかたちを展望する	4	40	3	25	2
2004	選択可能都市への相互デザイン	30 年後に何を残すか・都市論の再構築	2	19	2	12	2
2005	都市空間像のバースペクティブ	都市・地域空間のマネージメント	5	6	1	7	8
2006	パブリックのデザイン×デザインのパブリック	地域戦略としてのデザイン	3	5	3	7	－
2007	地域の力と都市デザインの技	地域の力を活かすまちづくりへの挑戦	3	11	3	11	－
2008	時空間を「シェア」する 21 世紀の都市・地域づくり	次世代の地域リーダーが目指す地域戦略	5	10	10	5	－
2009	まちづくり市民事業が拓く世界	市民派市長の政策と方法：	3	12	－	22	1
2010	構想と統合のダイナミズム-その先にあるまちづくりのすがたと地域空間像-	構想と統合のダイナミズム	2	4	3	17	－
2011	風景の再生へ・復興への道を歩む今、見えるもの		－	10	－	10	－
2012	生態有機都市のデザイン・2022 年への道程 自然環境との応答とコモンズの創成	地域再生・これまでの 20 年、これからの 20 年	4	11	1	5	2
2013	都市・地域を眺める 5 つの視座		－	9	1	15	－
2014	都市を計画する力を取り戻す		－	7	－	8	－
2015	地方都市から発信するコンパクトシティ		－	8	3	1	－
2016	まちづくりのこれまでとこれから-まちづくりの未来力-		－	33	3	9	6
2017	地域の持続のかたちを考える-千年を生き続けた知恵を活かしふるさとの暮らしを未来につなげるために-		－	10	－	2	－
2018	社会デザインと計画論の未来		－	3	1	8	－
2019	アーバニズムの現在と未来 - 大きな都市ビジョンと小さなボトムアップのアクションをつなぐ技術と思想		－	5	－	5	－
2020	巨大災害に備える - 事前復興まちづくりは今 - ：コロナ蔓延により中止						
2021	生態有機都市のまちづくりー『まちづくり庭園』の構想から地域マネジメントへー		－	5	1	9	3
2022	郊外住宅地の経年優化		－	4	1	4	3
2023	早稲田都市計画フォーラム 3 0 年・それぞれの歩みとまなざし		－	21	－	6	－
計	シンポジウム 30 回	メイヤーズ会議 17 回	93	352	88	317	41

計 891 人

◆早稲田都市計画フォーラムの歩み

1992 年度 早稲田大学における寄付講座の企画を契機に早稲田都市計画フォーラム結成
1993 年度 まちづくりシンポジウムスタート
1994 年度 連続セミナースタート
1993-95 年度 民間プランナー 45 社の協賛金により寄付講座（全学共通）
「現代都市・地域論」「現代都市・地域論演習」開講
メイヤーズ会議スタート
1995 年度 全学共通講座として「現代都市・地域論」開講に参画
1996 年度 早稲田大学専門学校「参加のまちづくりコース」「都市デザインコース」開講に参画
1997 年度 早稲田大学専門学校専修科「都市デザイン科」開講に参画
1996-98 年度 早稲田大学理工学総合研究センター学術支援領域「参加のまちづくり研究」開設に参画
2000 年度 早稲田大学都市・地域研究所開設に参画

